



新春宣伝で訴える田中まさや区議(→幡ヶ谷社会教育館前)と区議団(→代々木駅前)



能登半島地震救援募金にご協力をお願いします

2024年が始まりました。今年も、平和とくらしに希望が持てる政治に、全力をあげます。

元旦に発生した能登半島地震で、多くの方が犠牲になり、被災されました。お亡くなりになった方々に心から哀悼の意を表します。被災されたみなさんには心からお見舞い申し上げます。

日本共産党区議団は、1月6日に恒例の区内全域での新春街頭宣伝を行い、私も、幡ヶ谷駅、幡ヶ谷社会教育館前で訴えました。

どこでも日本共産党への大きな期待とともに能登半島地震救援募金に多くの方々が協力いただきました。この日寄せられた募金は

5万3,574円でした。全額被災地にお届けします。

さて住民のみなさんから、岸田政権と自民党にたいする厳しい批判の声が上がっています。くらしと経済の無為無策、大軍拡のために社会保障を削減し国民負担を強いる一方で、政治資金パーティで「裏金」をつくり、真相解明にも背を向ける岸田政

日本共産党区議団 新春街頭宣伝で、能登半島地震救援訴える 2024年 平和とくらしに希望ある政治を

権と自民党に、政権を担う資格はありません。国民の声で退場させ、希望ある政治を拓きましょう。

区政も物価高騰で苦しむ区民や中小業者への支援は極めて貧弱です。さらに敬老祝い金まで削減するなど許されません。玉川上水旧水路緑道再整備や宇田川地区まちづくりなど住民無視、大企業奉仕の区政を転換し、区民が主人公、くらし、福祉、教育最優先の区政に全力をあげます。

第4回定例会の田中まさや議員の一般質問より 視覚障がい者のスマホ使用の補助用具(リボ2)購入費補助は実現へ

私は、昨年の第4回定例会の一般質問で、区長に対して障がい者施策について2点質問しました。そのうち、視覚障がい者のスマホ使用のための補助用具(リボ2)の購入費の助成については実施に向けて検討するとの答弁がありました。

(1)障がい者福祉サービスの切れ目のない支援を

日本が、障がい者権利条約を批准して10年、その具体化である「総合福祉部会の骨格提言」から12年が経ちますが、政府はいまだに、「提言」を実施していません。

提言の重要な柱である障がい者福祉サービスの「応益負担」を廃止し、障害程度区分認定はやめて障がい者の実態に合ったサービスを提供できるよう「障害者総合福祉法」の制定を国に求めるべきです。区として、子どもの利用者負担を無料にすべきです。

また、65歳を超えた障がい者に、介護保険サービスを優先する国の通知については、違法の判決が出されています。区として自己負担なしで継続してサービスが受けられるようにすべきです。3点について、区長の所見を伺います。

(2)視覚障がい者の情報のバリアフリー化について

区内の視覚障がい者から、「スマートフォンを使いたいが、スマホを使うための補助装置であるリボ2(RIVO2)は高額で買えない。近隣区では補助があるが渋谷区では対象になっていない」との声が寄せられました。すでに、23区では13区が補助を実施しており、港区などでは日常生活支援用具として10万円補助しています。

リボ2も、日常生活支援用具に加えて、港区並みに補助すべきです。区長の所見を伺います。

低所得世帯と低所得の子育て世帯に給付金支給へ

1月24日 臨時議会開催

区議会は、24日に臨時議会を開き、①住民税均等割のみ世帯への給付金支給、②住民税非課税及び均等割のみの子育て世帯に対して18歳以下の子ども1人5万円の給付金支給という国の事業を実施するための補正予算案を審議・議決する予定です。

※渋谷区の実施内容等についての詳細は未定です。後日報告します。